〈その他〉

COVID-19禍における医療系大学生に対するオンライン海外研修の活動報告

Activity Report of the Alternative Online Study Abroad Training Program for Medical University Students Amid the COVID-19 Pandemic

松尾まき[1]　朝澤恭子[2]　川村牧子[3]　坂本すが[1]

1　東京医療保健大学　医療保健学部　看護学科
2　東京医療保健大学　東が丘看護学部　看護学科
3　東京医療保健大学　千葉看護学部　看護学科

Maki MATSUO[1], Kyoko ASAZAWA[2], Makiko KAWAMURA[3], Suga SAKAMOTO[1]

1　Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University
2　Division of Nursing, Higashigaoka Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University
3　Division of Nursing, Chiba Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

要　　旨：東京医療保健大学では、科学技術の発達やグローバル化など急激に変化する社会の期待に応え続けていくことを目指し、６つのビジョンを掲げ2006年より海外研修を実施してきた。2020年度の海外研修は新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより現地開催が困難となり、提携合意を交わしたオーストラリアのグリフィス大学において２回（９月と３月）のオンライン研修が実施された。参加者および研修日程は第１回目が22名で４日間、第２回目が12名で７日間のコースとなった。研修後のアンケート結果は、全体の評価において、「とても満足した」第１回目53%、第２回目75%であり、「ある程度満足した」第１回目41%、第２回目17%と、高評価が得られた。現地での海外研修に代わり国際交流を継続できた点は評価に値する。今後の医療系大学におけるオンライン海外研修への継続可能性については、現地研修を含め検討していくことが重要である。

Abstract：Tokyo Health Care University has been conducting study abroad training program since 2006 with six visions in mind, to continue to meet the expectations of societies undergoing rapid changes in the face of advancing science and technology as well as globalization. It was difficult to hold study abroad training on the ground in fiscal 2020 due to the COVID-19 pandemic, and two online training sessions (in September and March) were held at Griffith University in Australia, through which a corporation agreement was reached. Twenty-two people participated in the first training session, which lasted four days, and 12 participated in the second one, which lasted seven days. The post-training questionnaire results showed that the sessions were rated highly—53% of respondents after the first session and 75% after the second stated that they were “very satisfied” in terms of their overall evaluation, and 41% after the first and 17% after the second stated that they were “somewhat satisfied.” It is commendable that we were able to ensure international exchange in lieu of study abroad training on the ground. It is important to examine the possibility of continuing with online study abroad training at medical universities, in tandem with on-site training.

キーワード：海外研修、オンライン、コロナウイルス感染症、医療系大学生

Keywords：Study abroad training program, Online, COVID-19 pandemic, Medical university students

Ⅰ．はじめに

グローバル化への進展とともに在留外国人や訪日外客数が増加し、社会が多文化共存の世の中へと変化している[1)]。医療分野でも異文化理解や多文化共生社会への推進を図る教育が求められている[2)]。多様な患者に的確に対応しうるよう医療組織の文化的多様性の対応が必要であり[3)]、医療ケアの場において外国人患者が日本人患者と同じように医療ケアの満足度を得るための課題も見いだされた[4)]。多文化共生時代の医療の担い手としてグローバルに地域の状況や医療を求める人々にどう応えていけるかをマスターする医療人の育成が問われている[2)]。

看護系大学における海外研修の現状として、看護学専攻では長期海外滞在が困難であるために英語圏での短期海外研修が数多く実施され、国際的視野の獲得や語学学習の動機づけの有効性[5)]、渡航意識の高さ[6)]が報告されている。一方、課題として研修評価が主観的であることと、語学準備不足が多い[5)]。

東京医療保健大学（以下、本学）は「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育･研究及び臨床活動」と「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」の２つの柱を建学の精神としている。科学技術の発達やグローバル化など急激に変化する社会の期待に応え続けていくことを目指している。６ビジョンを掲げ、多様性を受け止める開かれた大学を目指した教育を行っている[7)]。

本学ではビジョンのもと、開学した翌年の2006年から海外研修を実施してきた。本学におけるこれまでのハワイまたはオーストラリアでの現地参加の海外研修は、語学、異文化および現地の医療動向の学習の満足度が高かった。しかしながら2020年度は新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）パンデミックを背景に国境を越えた移動が遮断され、現地での海外研修は中止せざるを得なかった。緊急事態宣言が発出され大学に通学することも制限された中、めまぐるしく遠隔授業環境を整え、新たな生活様式の中でCOVID-19の感染拡大防止と学生の学修機会の確保との両立を大学側も求められた。海外研修も同様であり、現地での学びができない中で学生に代替の海外研修の機会を提供するため、本学では2020年度の海外研修をオンラインで実施した。本稿では第１回、第２回のグリフィス大学オンライン研修の活動を報告する。

Ⅱ．研修の概要

本学では全学委員会である国際交流委員会が2005年の開学と同時に設置され、委員は各学部から選出されている。国際交流委員会では国際交流センターと連携を図りながら海外研修を実施し、当時から研修のプログラムの立案や研修先との調整などは国際交流アドバイザーが中心となり、国際交流委員会での活動を実践している。今回のオンライン研修先のグリフィス大学は、2018年に初めて海外研修を実施し、その後、提携合意を交わした経緯があった。

従来の現地海外研修では３つの研修目的、①ホームステイを通じて異文化交流を図るとともに英語力を磨く　②グリフィス大学で英語とオーストラリアの医療について学ぶ　③病院および施設を訪問･見学し、オーストラリアの臨床現場について理解を深める　を掲げ、全キャンパスの学部生を対象に研修を実施していた。研修期間は後期セメスター開始前の９月中の９日間であり、費用は250,000円程度であった。

COVID-19禍においてデジタルキャンパスを所有するグリフィス大学はオンライン研修が可能であり、現地海外研修の代替として、いち早く受け入れが可能となった。

１．研修目的

オンライン研修の目的は、①少人数制のクラスで生きた英語を学ぶ　②各種の独習プログラムを活用して英語力を磨く　③英語の授業と講義を通じてオーストラリアの医療について学ぶ　④英語の授業とアクティビティを通じてオーストラリアの文化と生活について学ぶ　であった。これらは現地開催のプログラムの目的である③以外は、オンライン研修用に変更された内容であった。

２．参加者

参加者の概要を**表１**に示した。第１回目の参加者は

表1　研修参加者の内訳　N=34

学部		第1回 参加人数（名）	第2回 参加人数（名）
学生	医療保健学部看護学科	3	3
	医療保健学部医療栄養学科	2	0
	医療保健学部医療情報学科	1	0
	東が丘看護学部	2	0
	立川看護学部	2	0
	千葉看護学部	7	1
	和歌山看護学部	1	1
	医療保健学部研究科	0	1
教員	医療保健学部看護学科	1	5
	医療保健学部医療栄養学科	1	0
	東が丘看護学部	2	0
	立川看護学部	0	0
	千葉看護学部	0	1
	和歌山看護学部	0	0
総数		22	12

学生18名、教員４名の計22名であった。学年別の人数は１年生が14名、２年生が３名、３年生が１名であり、各学部、学科より学生の参加があった。支援スタッフは３名であり、国際交流アドバイザーと学生参加数が最も多い学部の国際交流委員およびオンラインで使用するブラウザ、アプリケーション準備のため、ICTスキルの高い医療情報学科の国際交流委員で構成された。

第２回目の研修参加者は学生が６名、教員が６名の計12名であった。学年別の人数は１年生１名、３年生４名、研究科１名で構成された。今回の研修では看護学科の学生の参加が主であった。支援スタッフは２名であり、国際交流アドバイザーと参加学生の多い学部の国際交流委員であった。2020年度のオンライン海外研修の合計は34名となった。

３．研修日程

第１回グリフィス大学オンライン研修は、４日間で2020年９月に開催された。2021年３月には同大学で第２回目の研修が実施され７日間で構成された。

４．研修参加費

研修参加費は第１回32,000円、第２回35,000円で実施された。現地開催の費用の７分の１程度であった。

５．プログラムの概要

１）事前準備

研修予定の４か月前よりオンライン研修の可否について打診をはじめ、国際交流アドバイザーによるグリフィス大学との調整が進められ、おおよそのプログラムや研修費用の確定後、研修実施日の２か月前には学生募集を開始した。最低遂行人数が提示されているため、人数が満たない場合は各キャンパスで追加募集を行った。参加者が決定したのち申込書を集約し、グリフィス大学に提示すると、参加者あてに個別にメールが届くようになる。オンライン研修に必要な各種ソフトウェアの使用説明の動画やグリフィス大学の学生としての登録案内が届くため、学生個人で設定をすることになった。当然ながら英語での案内であり、不慣れな学生のために各キャンパスの国際交流委員が支援し、必要なソフトウェアのインストールなどは、医療情報学科の教員が中心となり学生支援を行った。また登録ガイドを日本語で作成し参加者に配布した。

２）研修内容（表２，表３）

第１回目の研修内容は、語学研修、現地学生との交流、オーストラリアのヘルスケア・COVID-19対応の講義であった。最終日は修了式が開催され、参加学生一人一人に修了証が発行された。また、希望者にはホストファミリーとの交流の機会が設定された。事前に大学側から送られてきた申込書に一般的な必要事項と

表２　オンライン研修特別英語プログラムと講義内容（2020年９月）

Date	**Morning Activity** **9:30 am - 1:00 pm**	**Afternoon Activity** **2:00 - 3:30 pm**
Prior to Day 1	Application Installment and Online registration	
Day 1	Orientation by THCU	Online Orientation
Day 2	Specialized English Class	GELI welcome presentation and exchange activity with GELI international students
Day 3	Specialized English Class	Lecture 1 - Australian Health Care and COVID Response
Day 4	Specialized English Class	Specialized English Class/Certificate Ceremony
		Reflection
Free Time	Online Morning Tea with Host Families	

GELI: Griffith English Language Institute，背景色付き THCU: Tokyo Healthcare University のみの内容

表３　オンライン研修特別英語プログラムと講義内容（2021年３月）

Date	**Morning Activity** **9:30 am - 1:00 pm**	**Afternoon Activity** **2:00 - 3:30 pm**
Prior to Day 1	Application Installment and Online registration	
Day 1	Pre Orientation by THCU	Online Orientation
		Question and Answer
Day 2	Specialized English Class	GELI welcome presentation and exchange activity with GELI international students
Day 3	Specialized English Class	Lecture 1 - Nursing Education, credentials and their work and responsibility at clinical sites in Australia
Day 4	Free day	
Day 5	Free day	
Day 6	Specialized English Class	Lecture 2 - Australian Health Care and COVID Response
Day 7	Specialized English Class	Specialized English Class/Certificate Ceremony
		Reflection

GELI: Griffith English Language Institute,　背景色付き THCU: Tokyo Healthcare University のみの内容

趣味やメッセージを記入し、マッチングによりホストファミリーと学生が決定する仕組みとなっており、その後は学生個人でコンタクトをとる活動であった。

第２回目の研修内容は、語学研修、現地学生との交流、オーストラリアの看護教育・ヘルスケア・COVID-19対応であった。さらに､学生自身でグリフィス大学の様々なプログラムに自由に参加できるようにフリーデイを設けた。英語クラスにおける第１回目との違いは、ブレイクアウトルームを使用し、グループワークを数多く取り入れた形式により、学生の積極的学習参加が可能となったことである。また、オーストラリアのCOVID-19の感染拡大の影響でロックダウン

があり、ホストファミリーとの調整がつかず交流の機会は持たれなかった。**表２**と**表３**にそれぞれの実施プログラムを示した。基本的には英語クラスのコミュニケーションはすべて英語で行われ、講義に関しては通訳があるスタイルで行われた。

３）事後研修

研修終了後、振り返りを目的にWeb会議サービスアプリのZOOMを用いて事後研修を実施した。研修期間中は参加した学生同士でコンタクトをとることが少なかったため、研修後の感想を語ってもらう場とした。

Ⅲ．研修の評価

研修参加者に対して研修期間や費用、プログラム内容、研修前の支援などについて研修後にオンライン調査を行い、研修評価を行った。

１）研修時期と期間

研修時期に関しては、９月、３月ともほとんどの学生が適切と回答した。どちらの時期も授業、単位認定試験等が終了した夏休みもしくは春休みの期間とし、各学部の行事が入っていない時期を考慮した。研修期間に関しては、９月は事前オリエンテーションを含め４日間の日程であったが、71％が「もっと長く」と回答していた。したがって、第２回目の３月の研修期間は、調整のうえ事前オリエンテーションとグリフィス大学のオンラインプログラムが自由に使える土曜日、日曜日のフリータイムを含む７日間の研修とした。その結果、75％が「適切」と回答した。しかし、25％の参加者は「もっと長く」と回答しており、９日間もしくは10日間との回答があった。

２）研修プログラム

（１）英語クラスと講義

英語クラスの授業については、第１回目、第２回目のそれぞれが「オンラインとして充実していた」41％、100％、「教師のサポートは十分だった」36％、83％、「個別指導が不十分だった」32％、８％、「オンラインでもどかしさを感じた」59％、８％であった（複数回答）（**図１**）。

講義形式で実施されたAustralian Health CareとCOVID Responseでは、第１回目、第２回目のそれぞれが「満足した」60％、50％、「興味深い内容だった」47％、50％、「あまり満足しなかった」12％、０％、「もっと詳しく聞きたかった」35％、17％であった（複数回答）。第２回目の研修に関しては、研修日程が第１回目に比べ長かったため、Australian Health Care Professionsの講義があった。「満足した」が58％、「興味深い内容だった」58％、「もっと詳しく聞きたかった」17％であり、「満足しなかった」と回答した参加者はいなかった（複数回答）。この講義での参加者が感じたこと、考えたことについて自由記載を求めたところ、「オーストラリアも高齢化による医療の問題が大きいことで共通しており、看護教育も社会のニーズに応じてカリキュラムの見直しが行われているとのこと、５年後に定年を迎えるナースが多く、オーストラリアの病院は定年まで働きやすいのか、その秘訣を詳しく知りたい」、「オーストラリアの医療、看護を取り巻く状況を知ることができ、もっと時間を延長し、詳しく聞

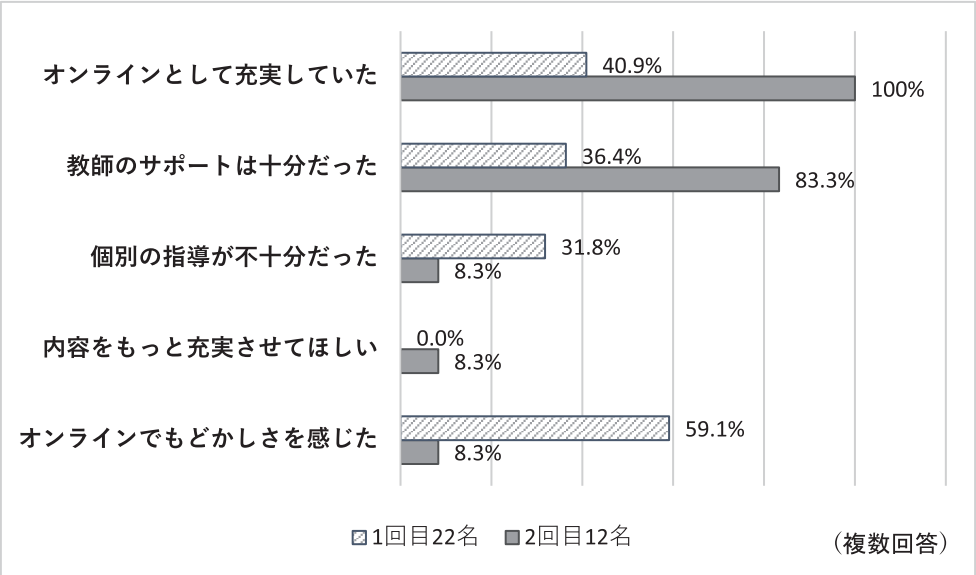

図１　Specialized English Classに参加した感想（N=34）

きたい」など、さらに詳細な内容を知りたいという記述があった。また、「オーストラリアの看護や看護学生について学ぶことで、自国の文化や看護、制度について振り返る機会となった」、「学生にとっては少し内容が難しかった。日本のことをもっと知っていれば比較できて面白いのかと思った」など、日本との比較をする内容が挙げられた。その他としては、「（オーストラリアでは）オンライン実習を臨地実習として代替できないことを教えていただき、日本のニュースを見ているだけではキャッチできない情報を学べた」、「キーワードとなる単語が早い段階でわかっていると、もっとすんなり話が入ってくると思った」という記述が見られた。

（２）学生交流のアクティビティ

現地留学生との学生交流を目的として、アクティビティへの参加がプログラムに含まれた。第１回目、第２回目の参加者はそれぞれ、「積極的に参加した」41％、８％、「ある程度参加した」12％、25％、「参加したけれど英語力不十分で十分理解できなかった」41％、58％、「英語がわからないからあまり参加しなかった」６％、８％であった。

（３）グリフィス大学のアプリケーション

用意されたグリフィス大学のアプリケーションの活用については、第１回目、第２回目とも「慣れると活用できることが多い」と半数以上の参加者が回答した。

（４）自習用プログラム

自習用プログラムとしてはグリフィス大学の学生として登録されているため、研修期間は自由にIndependent studyを活用することができた。参加者からは第１回目、第２回目のそれぞれで「プログラムが多く楽しかった」が12％、17％にとどまり、「もっと活用したかったが十分活用する時間がなかった」が53％、42％と多かった。「全然活用しなかった」も35％、17％と含まれた。なおこの自習プログラムは、研修修了後も各自利用できることになっている。

３）オンラインホストファミリーとの交流

オンラインホストファミリーとの交流は第１回目のみの研修内容となった。コミュニケーションの手段としてはメールが94％と最も多く、次いでSkypeとLINEが18％、ZOOM、WhatsAppが12％であった。ホストファミリーの体験をした参加者は「家族の対応が良かった」77％、「英語による対話への意欲向上」53％と回答があった（複数回答）。３日間の対話の利用時間は２時間以上が30％、２時間以下が47％であった。

４）研修全体の評価

グリフィス大学オンライン研修の全体の評価については、第１回目、第２回目ともに「とても満足した」53％、75％であり、「ある程度満足した」41％、17％と合わせると参加者からの評価は高かった。「あまり満足しなかった」「不満足だった」の回答はなかった。

５）本研修の継続性について

第２回目のアンケートに「この研修を友人や同僚にすすめるか」と回答を求めたところ、12名全員が「はい」と回答した。その理由については、「自分の殻を破るきっかけになると思う」「英語力だけではなく、自身のモチベーションやチャレンジ精神を高めることが出来るから。海外の医療制度や自分の専門について学び、改めて日本を見る視点を養うことは、視野も広がり色々な点でメリットがあるため」「とても楽しく英語も海外の医療についても学ぶことができたから」と視野の広がり・普段の学生生活では学べない機会をあげていた。また「オンライン英会話に関心があっても参加する勇気がない人にも、始めやすい・満足できる内容」「英語に自信がなかったけど、授業がわかりやすかったため参加してとても勉強になりとても楽しかったため」と英語を話すきっかけとして理由づけしている参加者もいた。さらに「参加者やグリフィス大学の方々も含め皆大変フレンドリーで一体感があり、とても楽しかった」「少人数でのグループワークであったため、もし友人と一緒のグループになったらより楽しく英語で話せると思ったから」「ある程度知り合いや友人がいる中でやると安心して参加できると思う」など、参加者同士の交流・知り合い同士、少人数制のクラス編成が勧めたいと思う理由に含まれた。一方でこの研修を勧めない理由として「ディスカッションや対話の時に、言いたいことや聞かれていることがわからないことで、もどかしさや苦手意識が強くなりそう」との意見があった。

Ⅳ．考察

１）現地開催の研修プログラムとの比較

今回、COVID-19の影響を受けて現地海外研修は開催できなかったが、オンライン研修という形で国際交流を継続できた点は評価に値し、今後の国際交流の在り方を検討できるといえよう。現地開催の研修プログラムと比較すると、語学、現地の医療動向の学習はおおむね達成できたが、現地学生との交流は積極的参加が少ないため達成度がやや低かったといえる。しかし、COVID-19の影響で大学ではオンラインを活用した教育が求められているため[8)]、学習面に関してオンライン研修は意義深いと考えられる。オンラインでも学生交流のアクティビティおよびホストファミリーとの交

流により、異文化に触れる機会を増やせるようプログラムをさらに工夫していきたい。

2）オンライン海外研修の学生による評価

研修開催期間については、第１回目のアンケート結果を受けた形で第２回目の日数を調整したことで、参加者が十分満足と言える期間の設定ができたと考える。９日間以上の日数を希望する参加者もいたが、現実的には医療系大学のカリキュラムのタイトさを考えると、非常に困難である。実際、看護系大学においては短期の海外研修が数多く実施されている[5)]。限られた条件の中で最大限できる工夫として、今回はホストファミリーとの交流、アクティビティ体験等ができた。このように、研修先と調整を図りながら魅力あるプログラムを模索し、経験を重ねることが重要なのではないかと考える。

研修参加者については第１回目の参加者が22名に対し、第２回目は12名の構成であった。このことは研修プログラム内の英語クラスでアンケート結果に差が最もみられる点であった。つまり、第１回目はオンラインでもどかしさを感じ、教師のサポートは十分とは言えないと認識した参加者が目立ち、第２回目にはそのように回答する参加者はほとんどいなかった。１回目の研修では１クラスの人数が多かったことに起因すると考えられる。オンライン授業でのデメリットは授業中に質問や意見が言いにくいこと、人との交流が少ないこと[9)]、画面上に表示される人数制限があり、一方向になりがちな場合もあること、また、教員のICTのスキルも関係してくるため、第２回目のように１クラス12名程度のオンライン研修が適切かもしれない。参加者人数によって２クラスの編成をする配慮も必要かと思われる。教員の資質も大きく影響することや、本学が研修先に改善点や希望などを積極的に求めていくことも重要な点であろう。

オンライン研修全体の評価は非常に高いものであった。研修の継続性について考えると、友人や同僚にすすめたいと思った記述からは、「楽しい」というキーワードが一番にあげられた。楽しさの中身としては、少人数制で、知り合い同士といった安心感、授業のわかりやすさ等があげられる。同じ大学の仲間であるという、連帯感がそうさせているともいえるだろう。また、普段の学生生活とは異なった講義に参加することが、自分の知見を広める機会となった実感や学習意欲をかきたてるような刺激となっていることがわかる。その反面、ディスカッションなどの場面で英語を伝えられないもどかしさを痛感し、苦手意識が増してしまうため、友人にはすすめないという感想もある。これは、語学学習にはどうしてもつきまとうジレンマであり、このもどかしさを少しでも解消するにはアクティブラーニングなどの機会を継続し、慣れていくことが唯一の解決策といえるのではないか。短期海外研修での体験は、将来仕事や社会生活に役立てるという長期的な学習動機よりも、今興味を持てる、あるいは自己鍛錬につながるという学習動機をもつ傾向があると報告されている[10)]。オンラインでの研修でも同様のことが推察され、英語学習の動機付けや幅広い視野を養うきっかけとして機能すれば、本学の求める医療人の育成につながるだろう。

Ⅴ．今後の課題

2020年はCOVID-19が背景にあり不確定要素が多いためか、研修の募集をしてもなかなか参加者が集まらなかったこと、そして決して参加者が多かったとはいえない現状であった。各学部の国際交流委員のさらなる働きかけや研修費用についての補助などが必要かもしれない。また、グローバル化への対応のビジョンをもとに東京医療保健大学として海外研修を企画しており、研究科の学生にも研修参加を積極的に呼び掛ける機会があっても良いかもしれない。

研修プログラム内容の参加者の理解促進については、事前に日本・オーストラリアの医療制度や看護について学修し、質問など少しまとめておく機会があると、より深い理解につながると思われる。

最後に、今回のアンケートへの回答は学生の主観的評価によるものであった。加藤[5)]も看護系大学における短期海外研修の現状と課題の中で、研修としての側面は客観的には十分調べられていないまま、研修の有用性を報告することが多いことを指摘している。今回はCOVID-19禍の状況でオンライン海外研修に切り替えたが、学生の評価から効果的な結果も得られた。今後、医療系大学におけるオンライン海外研修への継続可能性については、現地研修を含め実施報告を続け、情報共有を図りながら検討していきたい。

Ⅵ．おわりに

本稿では、本学における2020年度の国際交流のオンライン海外研修の取り組みを紹介した。現地に身を置く海外研修は体験できなかったものの、オンラインでの研修経験でも一定の効果は得られたと考える。それは単なる英語学習にとどまらず、様々なプログラムを通じて、自国を見つめなおす機会や他国の医療について知る機会を得たこと、コミュニケーションの取り方を工夫し、何とか相手の言っていることを理解しよう

とする姿勢、枠の中に閉じ込めた自分の殻を破る積極性などが養われたのではないか。そのような経験から参加者の皆様には多様性を意識できるような医療人になってくれることを願う。

謝辞

本稿の執筆にあたり、本学国際交流センター所属の国際交流アドバイザー早野真佐子様に多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

引用文献

1）坂本飛鳥. 医療職にグローバル人材は必要か？―オーストラリアでの留学経験をもとに―. 西九州リハビリテーション研究, 2020; 13: 8-10.

2）シュムプラング・ナッタデッド. 多文化共生時代の医療の担い手を育てる―国際医療福祉大学医学部の試み―「国際医療保健学」を中心に. 医学教育, 2020; 51(6): 663-668.

3）松田亮三. グローバル化と医療政策分析：新しい課題. 日本医療経済学会会報, 2014; 31(1): 2-12.

4）谷本真理子, 山崎千鶴子, 本谷園子, 他. 日本人看護師の外国人患者対応能力向上に向けた実践的課題探求の取り組み. 東京医療保健大学紀要, 2020; 14(1): 145-152.

5）加藤譲. 看護系大学における短期海外研修の現状と課題. 石川看護雑誌, 2020; 17: 1-10.

6）吉田豊, 八重樫裕幸, 山尾玲子, 他. 保健医療系学生の海外渡航に対する意識調査. 純真学園大学雑誌, 2019; 8: 59-63.

7）東京医療保健大学　建学の精神　URL; 建学の精神・沿革 | 東京医療保健大学 (thcu.ac.jp), ビジョン URL; ビジョン | 東京医療保健大学 (thcu.ac.jp)（アクセス日2021年4月19日）.

8）本田順子. オンライン活用による研究の可能性—国際共同研究を中心に. 看護研究, 2020; 53(6): 458-465.

9）岡田桂子. 学生からみたオンライン授業のメリットとデメリット―オンライン環境下のアクティブラーニングに焦点を当てて―. 長崎大学教育開発推進機構紀要, 2021; 11: 25-41.

10）香月毅史. 短期海外研修体験が看護学生の英語学習動機と学習意欲に及ぼす影響. 高崎建工福祉大学紀要, 2010; 10: 47-61.